

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	政治学研究科 政治学専攻	2026年度
英語	修士課程《一般》	秋季

《解答又は解答例》

- (1) B
- (2) 翻訳については、訳書が存在するため翻訳化権（翻訳権）の観点から掲載できない。
- (3) 翻訳については、訳書が存在するため翻訳化権（翻訳権）の観点から掲載できない。
- (4) B
- (5) どちらのアプローチをとっても、そのアプローチが生み出す個別具体的な権利について異なる結論を生じるから。
- (6) 翻訳については、訳書が存在するため翻訳化権（翻訳権）の観点から掲載できない。
- (7) 諸権利が何らかのかたちの政治的コミュニティを必要とし、そこで市民たちは他者との平等の条件で自らの生活の生活を追求するために必要な財を確保するための協働の公正な条件を模索するから。
- (8) 翻訳については、訳書が存在するため翻訳化権（翻訳権）の観点から掲載できない。
- (9) 論文形式の設題であるため、具体的な解答例を示すことはできない。出題意図の説明をもってこれに代える（諸権利と出生地ないし居住地を結びつける考え方が適切に理解でき、それに対する見解を論理的に展開できるかどうか）。
- (10) 翻訳については、訳書が存在するため翻訳化権（翻訳権）の観点から掲載できない。

《出題の意図》

- (1) 学術的な文脈で使われる語彙があるか。
- (2) 人称代名詞の使用をロジカルにトラック出来ているかどうか。
- (3) “those designated as” が適切に理解できているかどうか。
- (4) internal と external な排除について文脈から読み取れるか。
- (5) “Even if” で始まる長大な従属節を適切に処理（場合によっては無視）して、主節から主たるメッセージを読み取れるかどうか。
- (6) “not … but…” 構文を適切に捉えられているか。
- (7) 理由の接続詞 “For” を理解し、さらに文の内容を適切に要約できるか。“goods” が複数形であることから「財」の意味で理解できるか。
- (8) 前文の “depends on” が適切に解釈できるかどうか。分詞構文が適切に解釈できるかどうか。
- (9) 諸権利と出生地ないし居住地を結びつける考え方が適切に理解でき、それに対する見解を論理的に展開できるかどうか。
- (10) “It… that” 構文が適切に捉えられているか。

《参考》

日本語訳

リチャード・ベラミー著、千野貴裕および大庭大（訳）

『哲学がわかる シティズンシップ：民主主義をいかに活用すべきか』（岩波書店、2023年）